

日 時：2026 年〔令和 8 年〕7 月 5 日～6 日

参 加 者：岡村眞由美・岡村繁雄 他 2 名

行 程：5 日 キャンモア〔車〕⇒ マウント・シャーク駐車場〔ヘリコプター〕⇒ アシニボイン・ヘリパッド
→ レイク・メイゴッグ・キャンプ場

6 日 レイク・メイゴッグ・キャンプ場 → レイク・メイゴッグ湖畔 → アシニボイン・ロッジ → 小さな池
→ セルリアン・レイク分岐 → エリザベス・レイク分岐 → ナブレット → エリザベス・レイク分岐
→ セルリアン・レイク → サンバースト・レイク → レイク・メイゴッグ・キャンプ場

6 日 行動時間：5 時間 40 分

アシニボイン入山までの長い道のり

今回、アシニボインへの入山に至るまでには、実に多くのハプニングがあった。それらを一つひとつ乗り越え、ようやく入山することができたうえ、当日は天候にも恵まれ、素晴らしい景観を目の当たりにすることができた。振り返ってみれば、まさに強運に恵まれた旅であり、最高の感動を味わうことができた。少し長くなるが、ここでは入山までの経緯を記しておきたい。

14 年前の 2012 年 8 月、今回も同行した溝尾氏とともにアシニボインを訪れ、幸運にも山頂に立つことができた。その時もキャンモアの B&B モナークに宿泊し、オーナーの小川さんにヘリコプターの手配や、アシニボインの肩にあるハインドハットの予約などをお願いした。

今回も、半年前から小川さんとメールで連絡を取り合い、カナディアンロッキーの山旅について情報交換をしていた。今回の山旅の中でも最大の目的としていたアシニボインへの入山について相談すると、14 年前とは事情が大きく変わり、現在は入山すること自体がかなり難しくなっているとのことであった。

アシニボインには高級ロッジ、ナイセツ小屋、キャンプ場があり、それぞれ予約が必要となる。特にキャンプ場は 4 か月前からの予約が必要で、山小屋はさらに人気が高く、ここ数年は予約が取れたことがないという。前年までは電話予約で、なかなか電話がつかない状態だったが、今年からはオンラインブッキングが導入される可能性があるとのことだった。

予約開始は日本時間の 1 月 14 日午前 0 時 30 分。しかも、わずか 1 秒で予約が埋まってしまうほどの人気だという。小川さんから「今年は予約代行するのは難しいかもしれない」と言われていたが、ダメもとでナイセツ小屋の予約をお願いした。しかし、やはり予約を取ることはできなかった。

そこで次に、キャンプ場の予約をお願いすることにした。

そして、4 月 6 日、小川さんから待ちに待ったメールが届いた。

「7 月 5 日から 3 泊でレイク・メイゴッグのキャンプサイト 2 サイト予約できました。1 時間半ほどして、ついに粘り勝ちしました！」と、かなり苦勞して予約を取ってくれたようである。

それでも、ようやくアシニボインへの入山のめどが立った。

この知らせを聞いたときには、ほとんどアシニボインへの入山を諦めかけていただけに、まさに朗報であった。山小屋（ナイトセット小屋）は取れなかったものの、キャンプ場の予約が確保できたことで、ようやくアシニボイン入山への道が開けたのである。

この後、キャンプ場の予約と並行して、アシニボインへのアクセスに必要なヘリコプターの予約もお願いした。

ところが、入山直前になって、またしても思わぬ事態が起きた。

6月29日、キャンモアでは午前中からしとしと雨が降り続いていた。その雨の影響で、アシニボインへのヘリコプターの発着地となるマウント・シャーク駐車場へ向かう道路にある二つの橋が流され、通行止めになったという連絡が入った。そのため、7月1日から3日までは道路が閉鎖され、ヘリコプターも運休するとのことであった。当然、その間はヘリコプターによるアシニボインへのアクセスができず、多くの観光客や登山者も足止めされたようである。

「せっかくキャンプ場の予約が取れたのに、入山できないのではないか」

そんな不安が再び頭をよぎった。

しかし、7月1日の夕刻、アシニボイン側から連絡が入った。なんとか橋の修復が完了し、マウント・シャークのヘリポートまで行けるようになったとの知らせであった。

その知らせを聞いた一同は、思わず胸をなで下ろした。

7月5日のヘリコプターのフライトは、道路の開通によって予定どおり実施できることになった。ただし、通常であればマウント・シャークへは北側から向かうところ、その道路はまだ通行止めが続いていたため、南側から大きく迂回して向かわなければならなかった。そのため、キャンモアからマウント・シャークまでは車で約1時間30分を要した。

それでも、ようやくアシニボインへの入山のめどが立った。

さらに幸運なことに、このころにはアルバータ州北中部で発生していた大規模な山火事も鎮火し、カナディアンロッキー帯を覆っていた煙やモヤも次第に薄れていた。

山小屋の予約に失敗し、ようやくキャンプ場を確保したと思えば、今度は大雨による橋の流失。さらに道路の通行止めまで重なり、最後の最後まで入山できるかどうか分からない状況が続いた。

それだけに、7月5日、ついにヘリコプターでアシニボインへ向かうことができたときの喜びは格別であった。

14年前に一度登頂したアシニボインを、再び訪れることができる――。

幾つもの困難を乗り越えた末に実現した今回のアシニボイン山行は、単なる再訪ではなく、まさに幸運が重なって実現した特別な山旅となった。

キャンプ場 <https://assiniboinelodge.com/camping>

今年よりナイトセット小屋は、オンライン予約となっており、今年は1月14日の夜12時半スタートでした。

ナイトセット小屋 <https://assiniboinelodge.com/naiset-huts>



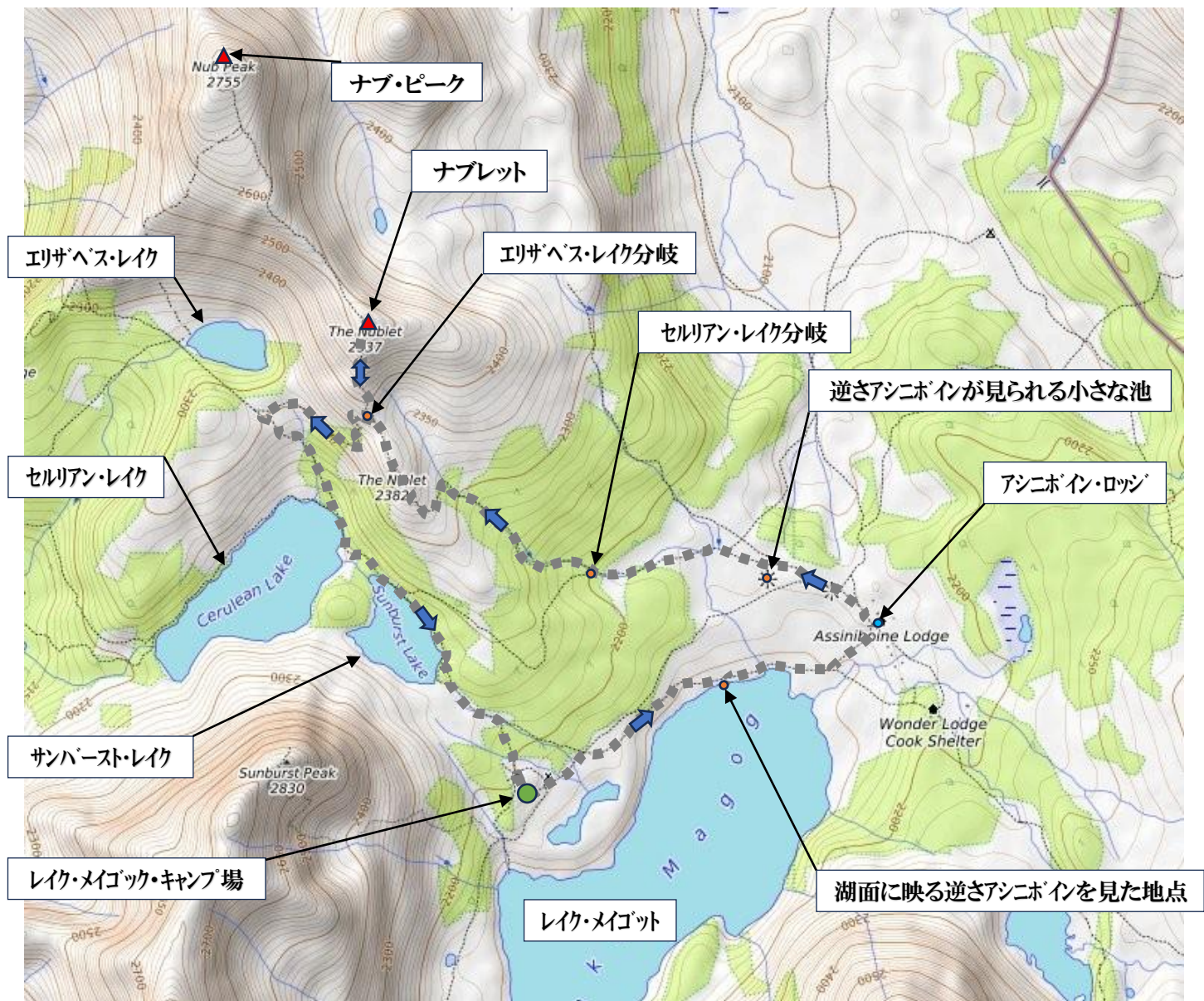
Google マップより [.....迂回ルート]



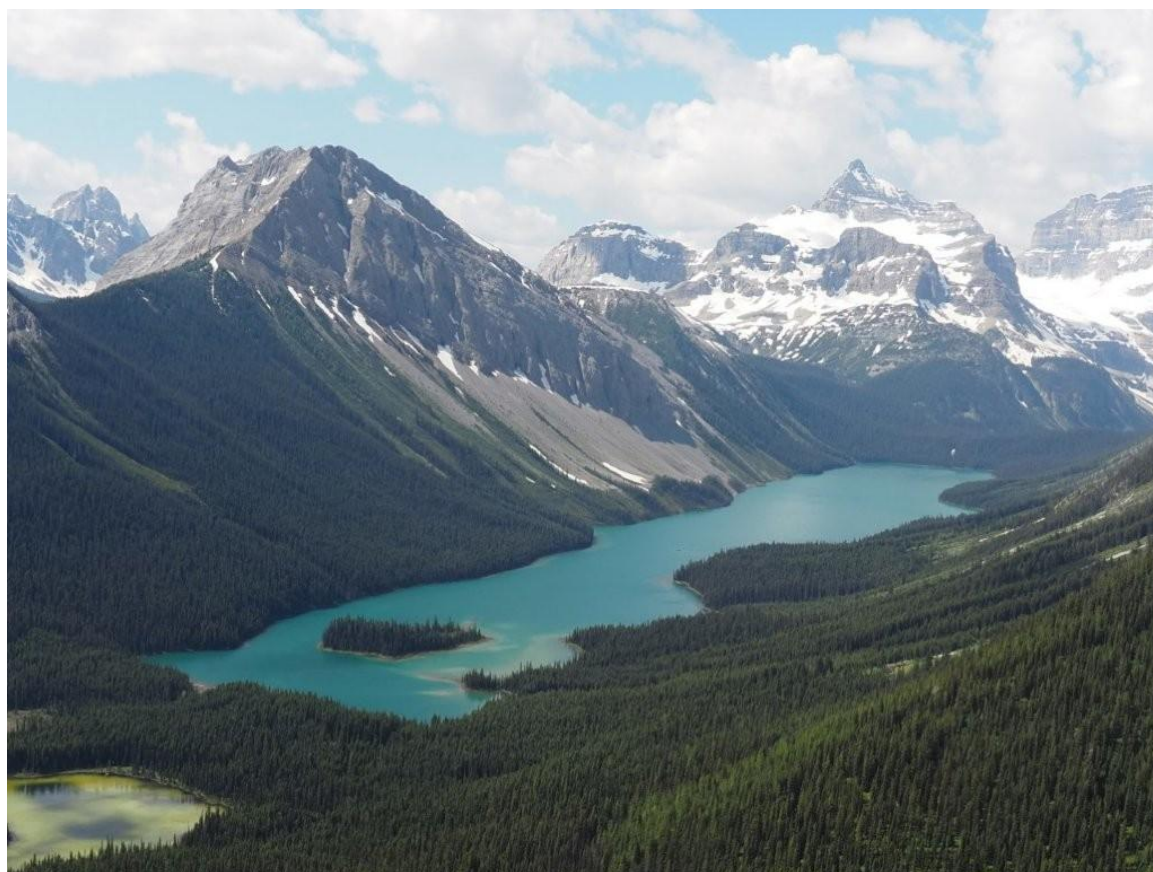
アシニボインへ向かう ヘリコプター



マウント・シャーク駐車場 ヘリコプターより撮影



OpenTopoMap org より [■■■■ 今回のコース]



アシンボインに向かう
ヘリコプターより
[マーベル湖と東側
から見た Mt アシンボイン]



後方 アシニボインロッジ



前方 アシニボイン「初めは この景色だけで感動」



マゴッグ湖とアシニボイン



ウェスタン アネモネ (Western Anemone)



△12と△11 板張りのベースがあるキャンプサイト



食料保管ボックス



沢の水を採水



外のテーブルで 一杯飲みながらの夕食

7月5日 マウント・シャークのヘリポートでは、2機のヘリコプターがアシニボインとの間を交互に往復していた。1機につき6名の乗客を乗せ、約20分間隔で次々と運んでいくため、ヘリコプターの運航が始まると、思っていたよりも早く順番が回ってきた。

我々は最後の方の便となり、アシニボインのヘリポートを出発したのは15時頃であった。

ヘリポートからは、アシニボイン・ロッジの前を通り、レイク・メイゴッグ・キャンプ場へ向かった。歩き始めて約40分でキャンプ場に到着した。

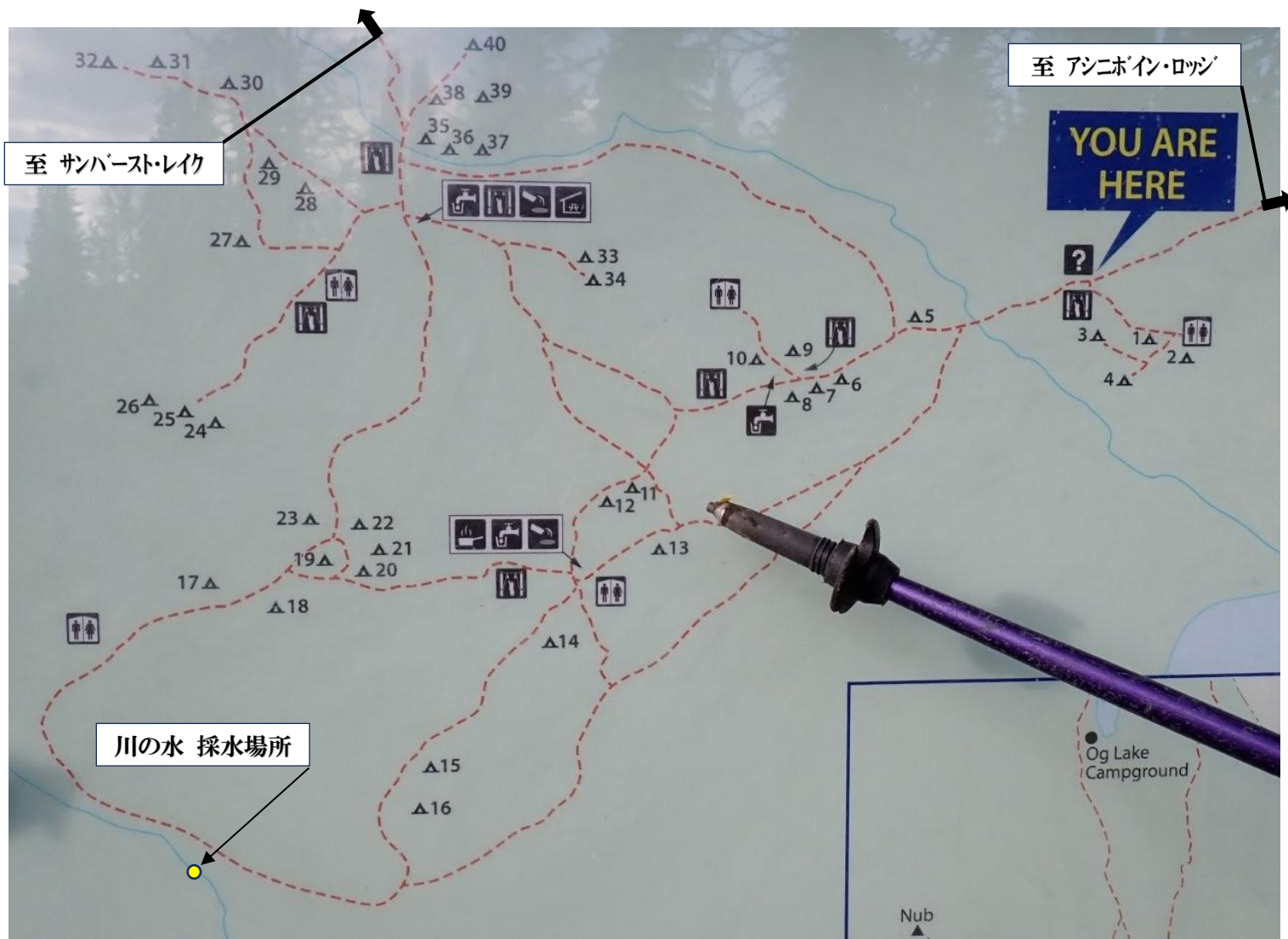
14年前に比べるとキャンプ場はかなり整備され、広いテントサイトがいくつも設けられていた。その中から、板張りのベースがある△12と△11のサイトを選び、テントを設営した。

各テントサイトの近くには、クマ対策のための食料保管ボックスが設置されている。食料はテント内に置くことができないため、空いているボックスを探して保管した。

キャンプ場はなかなか快適であった。ただ、蛇口は設置されていたものの水が出なかったため、入口近くの沢を利用することにした。しかし、地図を見るとその沢はサンバースト・レイクから流れ下る沢であったため、念のため少し離れた西側の沢まで水を汲みに行った。

前は8月だったため、蚊をはじめとする虫が多かったことを覚えているが、今回は夕方になっても、それほど気になるほど虫は多くなかった。

いつものように、ペットボトルにワインを詰めて持ち込み、夕食をとりながら一杯。日が昇っている間はそれほど冷え込むこともなく、ゆっくりとくつろいだ後、消灯した。



レイク・メイゴッグキャンプ場掲示板 テン場の配置図〔我々が張った位置は、△12と△11〕

翌7月6日 昨夜はやや冷え込んだものの、朝になると雲一つない素晴らしい天気となった。ナブレットから望むアシニボインの絶景への期待も大きく膨らむ。

午前7時キャンプ場を出発。

右後方には朝日に照らされたアシニボインがそびえ立ち、圧倒的な存在感を見せている。歩き始めて間もないこの場所から眺めているだけでも、素晴らしい景色である。

途中、レイク・メイゴッグの湖畔まで下りてみると、湖面にはアシニボインがくっきりと映り込んでいた。見事な「逆さアシニボイン」である

その美しさは、思わず息をのむほどであった。

これほど素晴らしい景色であるにもかかわらず、周囲には我々以外に人影がない。アシニボイン・ロッジからも十数分で湖畔まで下りてこられる場所なのに、誰もいないのが不思議なくらいであった。





レイク・メイゴッドの湖面に広がるこの絶景は 写真だけではなかなか伝えきれない。実際にその場に立ってこそ、その壮大さと美しさを体感できる景色であった。



しばらく湖畔で景色を堪能した後、アシニボイン・ロッジを経由してナブレットへ向かった。
ロッジを過ぎると、左手に小さな池がある。ここは「逆さアシニボイン」の撮影ポイントとしてよく知られており、
14 年前に訪れた際にも写真を撮った場所である。
今回も池の水面にはアシニボインが美しく映り込み、懐かしい景色との再会となった。
その先にはナブレットとナブ・ピークが次第に大きく見えてくる。



前方 ナブレットとナブ・ピーク



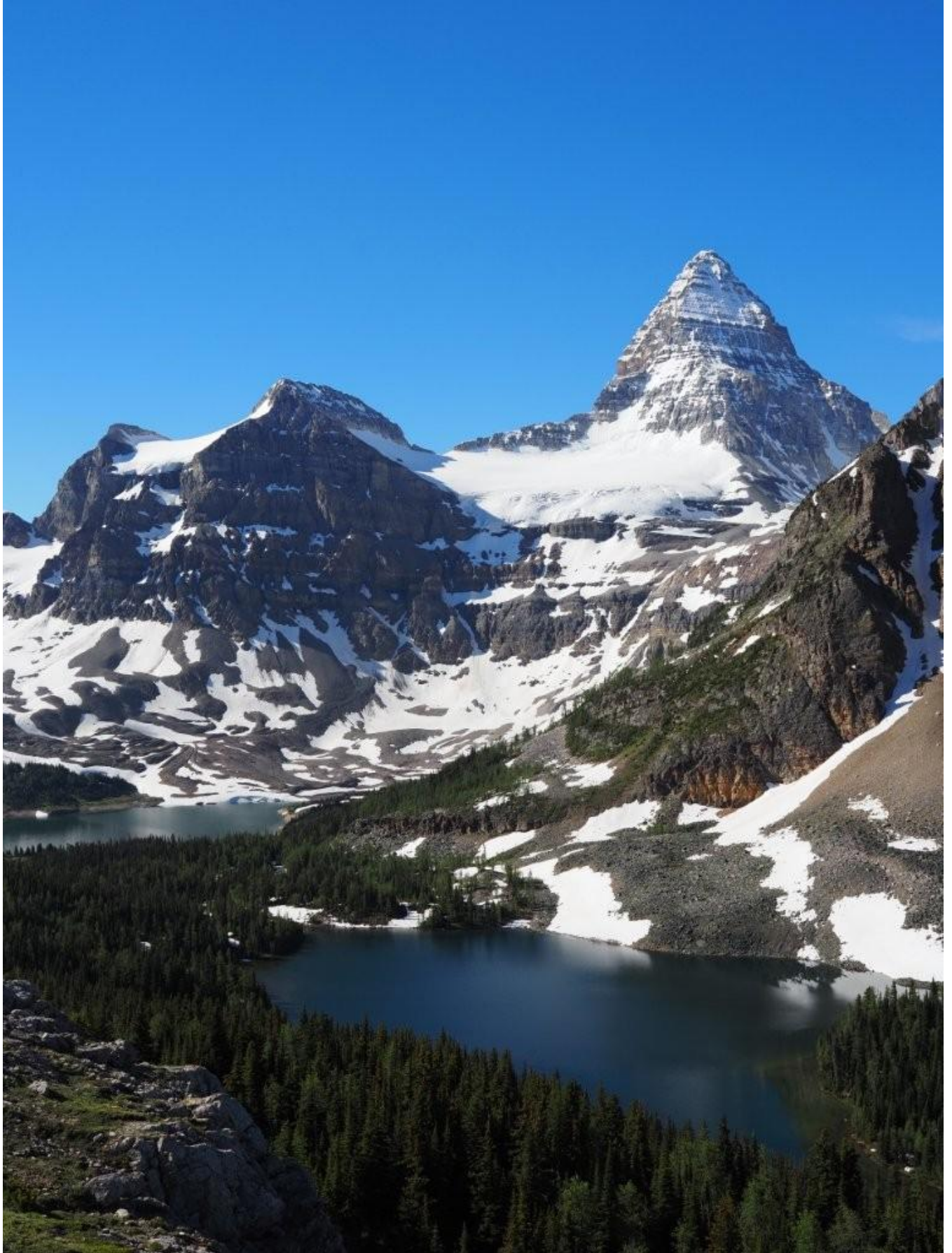
小さな池に映る逆さアシニボイン

セルリアン・レイク分岐からは登りとなる。さらに樹林限界を過ぎ、周囲の木々がなくなって展望が開けると、目の前にはアシニボインを中心に、周辺の山々といくつもの湖が織りなす素晴らしい景観が広がった。

ここまでの絶景を見ることができただけでも、今回のカナダ山旅の大きな目的を達成したような気持ちになり、大満足である。

周囲の景色を楽しみながら少しずつ登っていく。

そして私は、14年ぶりにナブレットからの絶景を再び目にすることができた。これほどの好天に恵まると、いつまで眺めていても見飽きることはない。



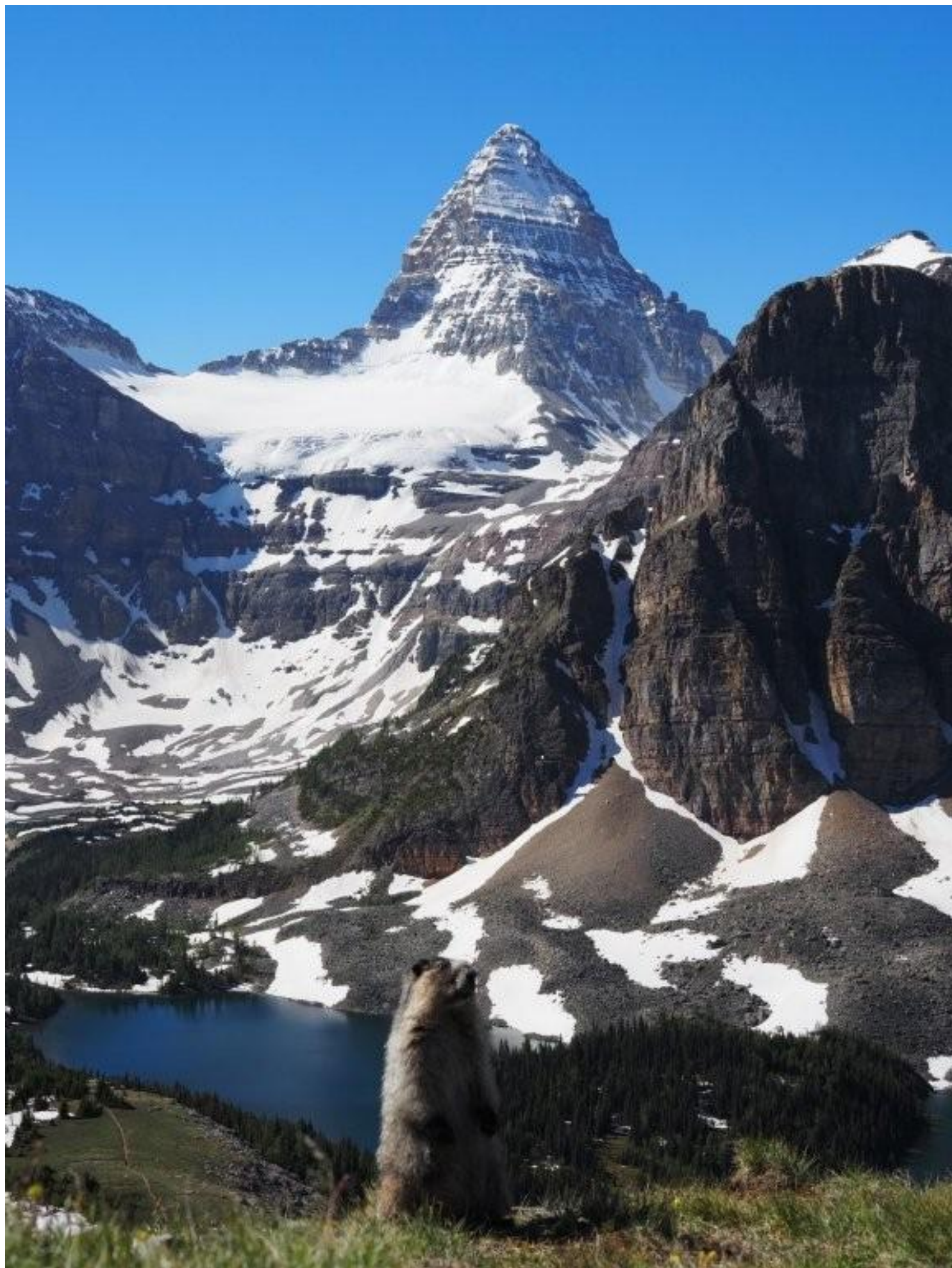


サンバースト・ピークスとセルリアン・レイク



ナブレット付近より「アシニボインを中心とした素晴らしい景色が広がる」

途中、アシニボインをバックにマーモットが絶好のポーズをとってくれた。思わず夢中になってシャッターを切る。





下山途中に出会った野ウサギ



ナデシコ科 モス キャンピオン (Moss Campion)



アシニボイン・ロッジ付近を撮影〔望遠〕

ナブ・ピークは、ここまでの歩きで少し疲れていたこともあり登らず、ナブレットでゆっくりと景色を堪能してから下山することにした。

さらに下山途中には野ウサギにも出会うことができた。

下山は、キャンプサイトへ直接戻ることのできるエリザベス・レイク分岐からセルリアン・レイクを経由するルートを選んだ。

セルリアン・レイク湖畔からは、サンバースト・ピークスとアシニボインを一望することができ、最後まで素晴らしい景色を楽しみながら歩くことができた。



セルリアン・レイク湖畔よりサンバースト・ピークスとアシニボイン

天候にも恵まれ、予想していた以上に素晴らしい眺望を堪能することができた。14 年前の記憶をたどりながらの再訪であったが、今回のアシニボイン山行は、前回は上回るほど印象深いものとなった。

入山までには幾つもの困難があり、最後まで本当に入山できるのか、不安な日々が続いた。それだけに、青空の下、雄大なアシニボインを眺めながら歩くことができた喜びは、ひとしおであった。

今回の山旅は、単に 14 年ぶりにアシニボインを再訪したというだけではない。多くの方々の協力とさまざまな幸運が重なり、ようやく実現することができた山行であった。

そして、その先に待っていたのは、14 年前と変わらない雄大なアシニボインの姿と、今回だからこそ心に刻まれた、さらに素晴らしい山岳風景であった。幾つもの困難を乗り越えてたどり着いたからこそ、その景色はより深く心に残るものとなった。

北九州山岳同好会「嵐」

Reported by S.Okamura Photo presented by S.Okamura